

授業概要

現代の IT 社会においては、手で文字を書くという機会が激減している。ペンなどの硬筆で文章を書くことも少ない中、若い人達が毛筆を持つ場面は皆無といえるだろう。

授業では、書体の変遷をたどりながら、書道史上の代表的な古典を取り上げ、講義・実技・鑑賞等を通して、表現力の理解と技術の向上を図るよう講義する。

また、将来の書写書道教育現場や実社会で役立つ内容（板書、掲示物、漢字の筆順、手紙の書き方、熨斗袋の作法など）も取り上げる。

小中学校以来久々に筆を持つ人、高等学校の芸術科で書道を選択した人、現在も書道を習っている人など、それぞれの経験の差を十分に配慮し、「筆で文字を書く」＝手書き文字の楽しさを再認識してもらいたい。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	楷書の学習①—筆に慣れよう～基本的な持ち方・姿勢・構え方の実習
第 3 回	楷書の学習②—楷書の名品「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」を比較してみよう
第 4 回	行書の学習①—実用的な行書を書いてみよう
第 5 回	行書の学習②—書聖王羲之の傑作「蘭亭叙」を学ぼう
第 6 回	草書の学習①—ひらがなの元になった草書にチャレンジ
第 7 回	草書の学習②—草書の古典「書譜」を臨書しよう
第 8 回	隷書の学習①—看板や題字に使われる隷書とは？
第 9 回	隷書の学習②—隷書の名品「曹全碑」に取り組もう
第 10 回	篆書の学習①—漢字が生まれた頃の姿「篆書」とは？
第 11 回	篆書の学習②—象形文字の姿は意外に現代的！
第 12 回	実用書道①—社会で役立つ手紙の書き方・熨斗袋の作法など
第 13 回	実用書道②—教育現場での板書・掲示物の書き方・漢字の筆順の再確認
第 14 回	まとめの作品制作—自分が最も興味を持った書体を「作品」として仕上げよう！
第 15 回	合同講評会—みんなで相互に作品を鑑賞しよう

到達目標

- ① 授業中取り上げた書体の変遷について概要を理解し、毛筆による的確な表現ができる。
- ② 将来の教育現場を想定し、書写力の向上と実践可能な技術を習得し得ることができる。
- ③ 書写書道に対する自らの考え方と、他者の表現に対する眼を養うことができる。

履修上の注意

初回ガイダンスにて、授業の進め方、各自持参すべき書道用具（筆・墨・硯・紙・下敷き等）についての説明を行う。道具を忘れると授業が成り立たないので要注意。

実習が中心となるので毎回の出席を最重視する。

予習・復習

予習は必要ないが、自分が苦手と感じた書体については、自宅復習を推奨する。

評価方法

毎回の提出物 70%（実技の成果として、いわゆる「上手・下手」の基準では評価しない）
授業への取り組み方（技術向上の努力姿勢・講評会での積極的な発言など） 30%

テキスト

- ・教科書は指定しない（毎回コピー資料を配布する）。
- ・参考書等については適宜指示する。